

補助金チェックシート

作成年度: 令和元年度

1. 補助金の内容

補助金名称	遠距離通学児童通学費補助金		
所管部署	学校教育部 児童生徒支援室		
根拠名称 (交付規則以外)	枚方市遠距離児童・生徒通学費補助金交付要綱		
交付の目的	枚方市立小学校に通学する児童のうち、通学の距離及び安全面から、バス通学が必要と認められる者の保護者に対して、バス通学に係る費用を補助することで、児童の安全な通学環境を確保し、保護者の経済的負担の軽減を図る。		
補助対象経費	枚方市立春日小学校に通学する児童のうち、通学の距離及び安全面から、バス通学が必要と認められる者(茄子作南町(府道枚方富田林泉佐野線に隣接する地域に限る。))に居住地を有し、枚方市立春日小学校に通学する児童)の保護者に対して、バス通学に係る費用(バス通学定期券の額)を補助。		
補助率・補助額	全額補助		
交付先	個人		
開始年度	平成4年度	終期年度	R4年度末(サンセット期日)
補助金性質分類	制度的補助	団体運営補助	事業費補助 〇 その他
法令等での義務付け	なし	法令等名称	

2. 補助金の決算状況等

(千円)			
	H28	H29	H30
予算額	14	14	14
決算額	0	0	0
特定財源	国庫支出金	0	0
	府支出金	0	0
	その他	0	0
	一般財源	14	14
(件)			
交付実績	0	0	0

3. 補助金の見直し

①補助金交付の基本的な視点

i 継続の判断(いずれかが不適合の場合は廃止)

視点	チェックポイント	チェック
公益性	補助金交付対象事業の目的や内容が、広く市民の利益に貢献するもので、特定のものの利益に供するものではない。	✓
必要性	関連する施策目標や事務事業目的の達成に必要な不可欠な補助金交付である。	✓
	ニーズが高い又は高いニーズが見込まれる補助金である。	✓
有効性	期待する効果をあげている。又は効果をあげる見込みがある。	✓
	補助金交付が委託や直接執行等と比較し、より適正で効果的な手法である。	✓

ii 補助金制度の検証

視点	チェックポイント	チェック	対応案	対応予定時期
必要性	調査等により市民のニーズを的確に把握している。又は他市町村でも同様の補助制度が多数存在することを確認している等、ニーズの推定ができています。	✓		
	一定数の交付申請件数がある。	✓		
有効性	補助金交付の具体的な効果測定方法が確保されている。	✓		
	終期設定がされている。	✓		
公平性	要件を満たす不特定多数が交付申請可能な制度となっている。又は特定のもののみに交付を行う合理的な理由がある。	✓		
妥当性	全額補助となっていない。又は全額補助を行う合理的な理由がある。	✓		
	補助率、補助金額、補助対象経費等の妥当性について確認している。	✓		
	補助率、補助金額、補助対象経費等が明確である。	✓		
	補助率、補助金額、補助対象経費が公表されているなど透明性が確保できている。	✓		

②補助金性質分類別の視点

その他

該当	チェックポイント	チェック	対応案	対応予定時期
○	他の類似制度と重複が無いか確認をした。	✓		

4. 補助金の今後の方向性

方向性	改善して継続
上記方向性を 選択した理由 (「改善して継続の 場合は改善内容」)	児童の通学上の安全を確保するため、現在の茄子作南町の該当地区以外にも対象範囲を拡大するかどうかを検討課題とする。
対応完了・廃止予定時期	令和2年(2020年)4月

補助金チェックシート

作成年度: 令和元年度

1. 補助金の内容

補助金名称	遠距離通学生徒通学費補助金				
所管部署	学校教育部 児童生徒支援室				
根拠名称 (交付規則以外)	枚方市遠距離児童・生徒通学費補助金交付要綱				
交付の目的	枚方市立中学校に通学する生徒のうち、通学の距離及び安全面から、バス通学が必要と認められる者の保護者に対して、バス通学に係る費用を補助することで、生徒の安全な通学環境を確保し、保護者の経済的負担の軽減を図る。				
補助対象経費	枚方市立杉中学校に通学する生徒のうち、通学の距離及び安全面から、バス通学が必要と認められる者(尊延寺1丁目から6丁目まで、穂谷1丁目から4丁目まで、宗谷1丁目及び2丁目、杉責谷1丁目、氷室台1丁目、大字尊延寺並びに大字穂谷に居住地を有し、枚方市立杉中学校に通学する生徒)の保護者に対して、バス通学に係る費用(バス通学定期券の額)を補助。				
補助率・補助額	全額補助				
交付先	個人				
開始年度	平成4年度		終期年度		R4年度末(サンセット期日)
補助金性質分類	制度的補助		団体運営補助		事業費補助
法令等での義務付け	なし	法令等名称			その他 ○

2. 補助金の決算状況等

		(千円)		
		H28	H29	H30
予算額		11,508	11,551	11,388
決算額		9,991	10,428	11,087
特定財源	国庫支出金	0	0	0
	府支出金	0	0	0
	その他	0	0	0
一般財源		9,991	10,428	11,087

(件)

交付実績	377	391	413
------	-----	-----	-----

3. 補助金の見直し

①補助金交付の基本的な視点

i 継続の判断(いずれかが不適合の場合は廃止)

視点	チェックポイント	チェック
公益性	補助金交付対象事業の目的や内容が、広く市民の利益に貢献するもので、特定のものの利益に供するものではない。	✓
必要性	関連する施策目標や事務事業目的の達成に必要な不可欠な補助金交付である。	✓
	ニーズが高い又は高いニーズが見込まれる補助金である。	✓
有効性	期待する効果をあげている。又は効果をあげる見込みがある。	✓
	補助金交付が委託や直接執行等と比較し、より適正で効果的な手法である。	✓

ii 補助金制度の検証

視点	チェックポイント	チェック	対応案	対応予定時期
必要性	調査等により市民のニーズを的確に把握している。又は他市町村でも同様の補助制度が多数存在することを確認している等、ニーズの推定ができています。	✓		
	一定数の交付申請件数がある。	✓		
有効性	補助金交付の具体的な効果測定方法が確保されている。	✓		
	終期設定がされている。	✓		
公平性	要件を満たす不特定多数が交付申請可能な制度となっている。又は特定のもののみに交付を行う合理的な理由がある。	✓		
妥当性	全額補助となっていない。又は全額補助を行う合理的な理由がある。	✓		
	補助率、補助金額、補助対象経費等の妥当性について確認している。	✓		
	補助率、補助金額、補助対象経費等が明確である。	✓		
	補助率、補助金額、補助対象経費が公表されているなど透明性が確保できている。	✓		

②補助金性質分類別の視点

その他

該当	チェックポイント	チェック	対応案	対応予定時期
○	他の類似制度と重複が無い確認をした。	✓		

4. 補助金の今後の方向性

方向性	改善して継続
上記方向性を 選択した理由 (「改善して継続の 場合は改善内容」)	令和2年4月から対象地域を拡大し、生徒の通学上の安全を確保する。
対応完了・廃止予定時期	令和2年(2020年)4月